

3月 セント・パトリックス・デー

連載第3回

うつつわに

恋して

NY 12か月の暮らし
お気に入り彩る



今月のお茶

「Gypsy Cold Care by Traditional Medicinals」

エルダーフラワーとミントのお茶。エルダーフラワーは粘液を浄化し、気道の通りを良くしてくれることから、古くから風邪やインフルエンザの治療に用いられてきました。アレルギー性鼻炎(花粉症)の症状の緩和の他、利尿や発汗作用に優れ、デトックス効果もあります。マスカットのような甘い香りは、気持ちを落ち着かせてくれます。飲み残しでうがいをする、喉や口腔の感染症予防にもなります。

テーブルコーディネートレッスンの時期はエルダーフラワーのコーディアル(濃縮液)を取り入れたウェルカムドリンクをお出ししています。新型コロナウイルス肺炎の感染が心配なこの時期にこそ、ぜひおすすめしたいです。

参考小売価格4ドル99セント(ティーバッグ16袋入り)

今月のOne Pointレッスン

「ティーカップとコーヒーカップの違い」

縦長でカップのふちがあまり広がっていないのがコーヒーカップ。これは、コーヒーが冷め、香りが飛ぶのを防ぐためといわれています。一方、ティーカップ=写真左=はふちが広く背が低いもの。紅茶の色と香りを楽しむために工夫された形です。カップの内側に絵柄が描かれているものもありますが、紅茶の色を楽しむためには絵柄がないものの方が好ましいとされています。格が高いのは、金彩や、カップの内側に柄がないもの。現代はコーヒーカップとティーカップの中間の形の兼用カップ=写真右=が主流になっています。私としては、知識としてその違いを知りつつ、使い



やすさやデザインを重視し、形式や格式にとらわれずにカップを愛用していただけたらと思います。

3月17日はアイルランドにキリスト教を広めた聖パトリキウスの命日。この日、カトリック教徒は、緑色のシャムロック(三つ葉のクローバー)を胸に着けて教会へ礼拝に出かけます。

今月はアイルランド系移民が多いニューヨークが緑に染まるセント・パトリックス・デーをテーブルで表現してみました。野暮ったくなりがちな真緑を減らし緑の濃淡でなじませて、自然な緑色がなんとも上品なウェッジウッドのワイルドストロベリーをメインに。「ぶっ倒れるまでビールを飲む日」などと豪語する人もいるぐらいなので、アイルランドを代表する黒ビール、ギネスをテーブルに飾ってもいいですね。



アイルランドには「緑色の服を着た赤ひげの妖精が金貨を壺に入れて虹の下に埋めて隠している。妖精を捕まればお宝のありかが分かり幸せが訪れる」といった民話が古くから伝わっています。シャムロックや赤ひげの妖精を飾って、金貨をテーブル上に散らしたら、セント・パトリックス・デーのテーブルの出来上がりです

St. Patrick's Day Parade

セント・パトリックス・デーのパレードが始まったのはニューヨーク。英軍の一員として従軍していたアイルランドの兵士が1762年3月17日に行進したのが始まりです。今年は、新型コロナウイルス肺炎の感染拡大のため、残念ながら延期となりました。



米軍オールドガード横笛・太鼓隊も行進 (U. S. Army Old Guard Fife and Drum Corps Follow, Photos by SSG Casey Paulozzi)



パレードの日には、緑色の帽子やシャムロックを身につけた人たちが街中にあふれます (photo: Juliancolton, <https://commons.wikimedia.org/wiki/User:Juliancolton>)

wild Strawberry by wedgwood

ウェッジウッドは、ジョサイア・ウェッジウッド(1730~1795年)が1759年に創設した英国の陶磁器メーカー。クリーム色の陶磁器を発明し、シャーロット王妃(1744~1818年)から「クィーンズウエア」の名称を授かり有名に。現在では世界最大の陶磁器メーカーに成長しました。

ウェッジウッドといえば真っ先に名前が挙がるワイルドストロベリーは、ジョサイアの自然を愛する気持ちから生まれた名品。絵柄は、彼が残した最初のデザインブックに残っており、同社で最も古い絵柄の1つとされています。

陶磁器に描かれた植物や昆虫の特徴や生息地についてうんちくを披露するのが一種のステータスだった18世紀の英国。絵柄を楽しむだけでなく、時代を反映させた鏡としての一面も愉しめるのが洋食器の面白さだと思います。



写真のお皿は1973~1980年に発売されたもの。刻印に壺が使われています。じつはこれ、ジョサイアが4年もの歳月をかけて1775年に完成させた同社を代名する技法、ジャスパー(繊細なレリーフ装飾が施されたストーンウエア)の代表的なライン「ポーランドの壺」(1790年作)を表したもののなのです。

英国スタッフオードシャーにある本社前のジョサイアの像もしっかりこの壺を抱えています。刻印1つとっても、このような歴史が存在するのはさすがですね。



大石育子
インテリアコーディネーター、食空間プランナー、英国式紅茶インストラクター。日本フィンガーフード協会認定講師。食空間プロジェクト(FSPJ)認定サロン。初級ディプロマ発行校 Atelier de Ikuko New York 主宰。「東京ドーム・テーブルウェアフェスティバル」特別審査部門で2019、2020年と2年連続入選、2020年、テーブルウェア・コーディネート部門入選、特別審査部門・奨励賞受賞。日本クラブカルチャー講座講師。
<http://atelierdeikukonyamebaownd.com>